

(アンケート集計及び学校関係者並びに外部による評価を受けて)

今年度の学校関係者による評価では全体的にバラつきがあった。  
学校として前年度に引き続き改善していく必要のある所はしてきたつもりであったが、「どちらともいえない」という評価が多かったのは真摯に受け止めるしかない。  
特に改善が難しいと考えるところは行事関係であるが、国家資格を取得するため、学生は年間授業時間数をクリアしていかなければならないので行事の時間が少なくなってしまう。学生のことを考えると一日中自動車のことばかり勉強しているとストレスも溜まり、体を動かすことも必要であるとする。この件は、しばらく学校としての課題である。  
また、進路に対するアドバイス、生徒指導に対する理解に対しても評価のばらつきがあり、学校・教職員・保護者一体となつての生徒個人のより充実したケア、生徒指導を目指していかななくてはならない。  
それ以外にも、施設の老朽化問題も近年ずっと指摘を受けている所であり、学園として話し合いを設けて改善を図っていきたいと考える。またホームページ、学校の情報公開にも力を入れていく必要がある。集計結果では「どちらでもない」「普通」という結果に集中するということは、保護者の方に学校のホームページの確認を促していく必要がある。  
その他の指摘に対しても、柔軟かつ早急な対応をとっていききたい。

29年度、30年度以降は、教育理念を再確認し、教職員全体で生徒のことを第一に考え、学校生活を含め将来学生の為になる教育を目指せるようにしていく。